

## 木枯らし

もうこれ以上ここにはいられない  
何もさえぎるものすらなくて  
ひっそり残る麦いろのエノコログサが  
一株だけ強く立つ

誰に認められなくても  
この気持ち譲れない  
だけどニーズにも  
寄り添えられていない

そこにいる資格もない  
相手されない冷たさの中  
そんなところにふく木枯らし  
冷たいだけでもない

モノトーンになった線路づたい独り歩き  
隙間だらけの線路の柵の手前の  
雨風にさらされた舗装の色が  
やけに綺麗に映っている

誰に認められなくても  
信じたことやめる気はない  
だけど見たくない  
ことも見ていない

確証バイアスかかること  
いちばん恐れていたのに  
そんなところにふく木枯らし  
冷たいだけでもない